

2020年にあって

守山市長 宮本和宏

1. はじめに

新年あけましておめでとうございます。令和最初の新年を健やかに迎えの心と心よりお慶び申し上げます。本年も何卒よろしくお願い致します。

さて、年始に私が心に刻んだ言葉は、『温古知新』（古きを尋ねて、新しきを知る）（通常は「温故知新」ですが、市役所の前の石碑には「温古知新」の4文字が刻まれています。）

2. 市政施行50周年の節目

ご存じのとおり、本年7月1日に、本市が市制施行50周年を迎えます。昭和45年の「町」から「市」への移行により、自治体として権限を持って、市民の皆さまとともに諸課題の解決に主体的かつ積極的に取り組んできたところです。この50年を振り返ると、昨年6月に放水路通水から40周年を迎えた野洲川大改修、教育や福祉・医療の充実、ホタルの舞う豊かな自然環境、計画的な都市基盤整備、高い自治会加入率等により今の守山市があるのだと考えています。今日まで御尽力頂いた先人また地域の皆さま、市役所の先輩方に改めて心より御礼を申し上げます。

昨年12月には、50周年のプレイベント「灯りでつなぐ、守山」として、中洲小学校の樹齢65年、高さ約30mのメタセコイアの木に約5万枚のメッセージカードを飾り付け、世界一の美しいクリスマスツリーづくりに挑戦し、見事にギネス世界記録を達成することができました。市民の皆さまのご協力と市役所の取り組みにより、守山市が一つとなった「市民力」の結果であり、大変誇りに思っています。

本年は、50周年記念事業が目白押しであり、また、東京オリンピック・パラリンピックもあり、本市にとって、まさしく節目の年ですが、守山市のこれまでの経過や歴史をしっかりと振り返りながら、市政の原点である「市民のための市政」をしっかりと踏まえる中、また、現場主義で地域の実情を踏まえる中、50年先のまちづくりやひとづくりを市民の皆様、また、市議会の皆様と議論しながら、共に考える一年にしていきたいと思います。

3. 我が国を取り巻く環境と市政の課題解決

米中貿易摩擦や中東情勢、北朝鮮情勢など、我が国を取り巻く社会経済情勢・安全保障環境は予断を許さない状況です。また、未曾有の少子高齢化の進展、持続可能な社会保障制度の構築、オリンピック後の景気動向、財政の健全化、防災対策の強化、地球温暖化の進展、化石燃料に代わる電力源の確保等、多くの課題がありますが、将来を見据えた「持続可能な社会」の構築が必要不可欠です。

その中で、市役所の役割は、市民生活をしっかりと支え、「守山に住んで良かった」と真に実感頂けるよう、各施策を展開することです。一致団結して、多くの課題に果敢に立ち向かい、将来を見据えたまちづくりとひとづくりの基盤を市職員の皆様としっかりと連携し、築き上げていきたいと考えます。

4. 市政の課題解決

市政の課題としては、本年も引き続き、「環境センターの更新」を最重要課題として取り組みます。昨年5月28日に本体工事の起工式を行い、昨年11月末には全ての基礎杭工事が完了し、お陰様で

工事が順調に進捗しており、令和3年10月の操業開始に向け、ごみの分別方法の見直し及び市民の皆様への周知徹底も含めて、計画的に取り組むことが必要です。

また、入札不調により遅れていた温水プールを含む付帯施設が、昨年12月に無事落札され、令和3年4月のオープンに向け、運営面の検討も含め、市民の皆さまが集い、交流し、市民の皆様に愛される施設となるよう鋭意取り組みを進めることが必要です。

待機児童対策としては、昨年4月に開園された「ふるたか虹のはし保育園」（定員204名）に続き、本年4月には、市民ホール北側に新たに「（仮称）すみれ保育園」（定員120名）が開園予定です。幼児教育・保育の無償化の施行状況を見ながら、保育士確保を含めて、引き続き、ハード・ソフト両面から対策を進めることが必要です。

また、高齢化の進展の中、地域包括ケアの実現を含めた高齢福祉施策の充実、地域交通の充実、また、障害福祉施策の充実を図ることが不可欠です。中でも、多くの複雑かつ困難なケースへのきめ細やかな対応やサポートが必要不可欠です。また、これら福祉に係る施設での人材不足は大きな課題であり、市としても独自施策を検討することが不可欠な状況です。

さらに、次代を担う子どもたちが心豊かにたくましく生き抜く力を身に付けられるよう、教育の充実、子どもの心に着目した「子どもの育ち連携」等を進めることが必要です。

当然、市役所として、働き方改革の推進、ICTの積極的活用、令和2年4月からの会計年度任用職員制度の導入、市役所の建替えに向けた基本設計、防災減災対策等を進めることが必要です。

また、環境学習都市宣言の具現化、雇用・税収確保と地域経済の活性化に向けた企業誘致・既存企業支援・起業創業支援・農業振興・観光振興、また、計画的なインフラ整備等が必要です。加えて、入管法改正による外国人労働者の的確な把握及び受入れ環境を整えることが不可欠です。

<今年の主な予定>

- ・4月 新たに、保育園、地域密着型特別養護老人ホーム、市民病院リハビリ病棟の開設
- ・5月28日 東京オリンピック・パラリンピック聖火リレー（湖岸地域で日本コカ・コーラと連携）
- ・7月1日 市政施行から丸50年
- ・8月 トルコ共和国の視覚障がい者柔道及びゴールボールの選手団が事前合宿
- ・9月 50周年記念・総踊り（市民運動公園）
- ・11月7日 50周年記念式典
- ・11月8日 50周年記念・吹奏楽フェスティバル

5. さいごに

今年も、守山市役所の強み「誠実さ」に自信を持ち、現場主義で、自ら（自分たちで）考え、部課長の即断即決のマネジメントの下、ワークライフバランスの中、各部課の課題解決に邁進して下さい。

当然ながら、公務員として、職員一人一人がコンプライアンスを常に意識し、遵守をお願いします。

また、引き続き、市民の声に真摯に耳を傾け、市民の立場に立って考え、一人一人の市民や自治会等に寄り添い、共に進む姿勢での対応をお願いします。

一丸となって全員野球で、市民の皆様が真に「住みやすさ」を実感頂き、子供からお年寄りまで老若男女の市民の皆様の『笑顔』が一杯見られる一年に、また、上述のとおり、『温古知新』で、50年先のまちづくりやひとづくりを市民の皆様等と共に考える節目の一年にしたいと思います！

2020年、本年も何卒よろしくお願い致します！